とうかいどうちゅうし

#30 東海道中詩

作者：小畑詩山（おばた・しざん　1794-1875）
刊行：天保８年（1837）

◇◇◇

史を好み、多くの詩文集を著した。亀田鵬斎（1752-1826 儒者）、朝川善庵（1781－1849　儒者）、菊池五山（1769？～1849？漢詩人）、大窪詩仏、梁川星巌（1789～1858　漢詩人）らと交遊があった。

別の著書『漫遊詩草』では長崎から旅立ち、天草、福岡、広島から神戸、奈良、伊勢、箱根から江戸、仙台、松島、青森に至る旅の間に詩を詠んでいる。『東海道中詩』の奥付の「著述目録」によれば、他の著作に『詩山雑咏』『詩山堂詩草』、『詩山堂詩話』がある。詩集のほかに、『梅瘡秘訣』など医学書の著作もある。

📖　本文を読む

＜影印＞

「東海道中詩」（『紀行日本漢詩』第３巻 富士川英郎・佐野正巳（共）編 富士川英郎解題 汲古書院 1992）［919.5/109/3］

📖　参考文献

荒尾禎秀「狂詩の漢字語：『東海道中詩』の場合」（『清泉女子大学紀要』(60) 2012）［Z0513/30］　※清泉女子大学機関ﾘﾎﾟｼﾞﾄﾘで閲覧可能